



不安な状況だからこそ、冷静な対応を

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

全国で過去最多の感染者数を更新し続けている新型コロナウイルスの流行。感染しても無症状の人もいれば、重症化する人など、症状は人によって様々です。さらに感染後の後遺症に苦しんでいる人もいます。「いつ治るの?」「本当に治るの?」と不安を募らせながら暮らしていくのは、本当に辛いことです。後遺症の症状には、倦怠感や息切れ、味覚や嗅覚の障害、ブレインフォグ(「脳の霧」といって、脳に関する症状で、判断力の低下、記憶力の低下)などがあります。後遺症について周囲からの理解を得られず、「さぼっている」「大したことない」「気持ちの問題」などと言われたり、退職を迫られたりするなど、病気と周囲の無理解の二重に苦しんでいる人がいます。

また発熱外来には患者が殺到し、医療現場が逼迫している状況が続いています。受診を断られ暴言を吐く人、発熱外来を受診できずに救急車を呼ぶ人、検査目的で発熱外来を受診する人等々、このような行動が医療現場の混乱を招く一因となっています。発熱外来や救急車の適切な利用など、一人ひとりが医療逼迫に協力していくことが必要です。

強い感染力を持つオミクロン株の流行は、感染防止対策を行っていても、感染を防ぐのが難しく、誰が感染してもおかしくない状況です。コロナ感染初期のような「コロナ差別」は少なくなったように感じますが、感染者や後遺症に苦しむ人に対する無理解など、以前とは違う形の問題が発生しています。コロナ後遺症に苦しむ人が増えるおそれがある中、周囲の理解とサポートが求められます。

自分だけではなく、誰もが不安であり、誰もが大変な状況です。このような状況だからこそ、正しい情報を確認し、冷静な対応に努めましょう。

2022.9

宇陀市人権啓発活動推進本部

※このビラへのご意見・ご感想は

☎0745-82-2147または jinken@city.uda.lg.jp

